



## 地方公共団体

奈良県副知事

末光 大毅

SUEMITSU Daiki

【平成11年入省】

### CAREER

平成11年 大臣官房文書課  
平成13年 留学(米・カリフォルニア大)  
平成15年 主計局総務課  
平成17年 関税局関税課 課長補佐  
平成19年 在インド日本国大使館二等書記官  
平成21年 在インド日本国大使館一等書記官  
平成23年 主税局総務課 課長補佐  
平成24年 主税局調査課 税制調査室長  
平成26年 主計局主計官補佐(厚生労働係担当主査)  
平成27年 主計局主計官補佐(地方財政係担当主査)  
平成28年 大臣官房総合政策課 政策調整室長 兼 国際経済室長  
平成29年 大臣官房総合政策課 企画室長  
平成30年 奈良県総務部長



## やがてフィールドに立つ皆さんへ

### 奈良県にて

奈良県に赴任後、総務部長を経て現在は副知事を務めています。総務部長としては、財政や人事など組織の要の分野を、また副知事としては、福祉、医療、観光、文化、スポーツ、教育、人権、水道などの幅広い施策を担当してきました。手触り感のある現場の様々な課題について、知事や職員と議論しながら判断を重ねる毎日は、大変やりがいがあるものです。

また、県議会議員や市町村長、企業関係者や事業者、学識経験者、寺社、諸団体など、県庁外の方々にも御厚誼を賜っています。

霞が関では得られない貴重な経験に恵まれる中で、職業人としても個人としても、大きな学びの機会を頂いています。

### 公共の課題は今後どう訪れるのか

奈良は日本国の濫觴(らんしょう)の地です。かつて、大陸から進んだ技術や制度を積極的に取り入れて国づくりに邁進しましたが、国際情勢と技術が社会に大きな影響を与えているのは、現代の日本も同じです。とりわけ今後は、グローバル化と情報通信技術の進展により経済活動が大きく変容する中で、人口動態への対応などの国家的課題にも取り組むことが求められています。

人口動態の加速的な変化は、社会保障や地方

行政などの仕組みを支える基盤を一層揺るがしていきます。余剰の調整の時代は遠く過ぎ去り、経済的な付加価値や資産、人材が伸び悩んだり減ったりする中で、公共の役割として、既存の利害に見直しを迫る難しい調整が益々増えるでしょう。

同時に、グローバル化に適応し革新技術を活用しながら、豊かさを享受し続ける努力も必要です。経済や人口の規模の変動を上手に乗り越えつつ、未来へ橋を架けていく工夫が、今、日本に求められています。

### より良い未来の目指し方

では霞が関はどう振る舞えばよいでしょうか。実は、難しい局面であっても、基礎的スキルがあれば一定のアウトプットには辿り着けます。基礎的スキルとは、例えば、日程、財源、人事、人脈、組織、事業、制度、交渉など、眼に見えないものを含めてマネージする力が挙げられるでしょう。しかし、そのアウトプットが長期的に見て最適解に近いかは別の話です。

現代の複合的な変化の中では、先例も十分に役立ちません。最適解を追求するには、したがって、幅広い視野と柔軟な発想が必要です。とはいえ、一人ひとりの知識、経験、能力だけではどうしても限界があります。このため、多様な経験や意見を持ち寄って、皆でベストに向かって知恵

を出し合うことがとても大切と思います。

これは、難しい利害調整の時代では、とりわけ重要なことです。財務省の政策が誰かに何かを失わせるとき、様々な批判が伴うでしょう。しかし、だからこそ、最終的に「財務省が言うことだからきっと正しいだろう」というぎりぎりの信頼を得ていることが極めて重要です。そのぎりぎりの信頼を保つためにも、厚みのある議論は財務省の生命線だと思います。そしてそれは、長期にわたって存続する公共組織として信頼と能力を保ち続けるためにも、とても重要なことです。

私はかつて在インド日本国大使館にも出向しました。地方勤務も含めて多くのフィールドを用意しながら、財務省は幅広い視野と柔軟な発想を求めています。皆さんもたくさんの経験を重ねてそれぞれの物の見方を深めてみてください。

この国の未来を担う皆さんと議論できることを楽しみにしています。



## 地方公共団体

青森県総務部財政課長

永安 俊介

NAGAYASU Shunsuke

【平成22年入省】

### CAREER

平成22年 国際局総務課  
平成23年 国際局地域協力課  
平成24年 IMF・世銀総会準備事務局  
平成24年 金沢国税局  
平成25年 厚生労働省老健局高齢者支援課  
平成27年 留学(英・ヨーク大、LSE)  
平成29年 理財局総務課 課長補佐  
平成30年 理財局国有財産企画課 課長補佐  
令和元年 青森県農林水産部団体経営改善課長  
令和2年 青森県健康福祉部高齢福祉保険課長



## 多様性に満ちた国家社会～財政の役割と責任～

### 地域社会の多様性

りんご農家の収穫をお手伝いしたときに頂いた「もぎたてのりんご」の驚くほど爽やかな甘さ。地道に守られ育まれた「青森ヒバ」が生い茂る森林で全身に浴びた空気の清々しさ。過疎地域の高齢者の「つどいの場」に流れる穏やかな時間。日本最多を誇る銭湯巡りで出会った彩り豊かな泉質の素晴らしいと、地元入湯客から湧き出る聞き取り困難な方言の不思議な魅力。「ラッセラー！」の掛け声が響き渡り、街中が「じゃわめぐ」ねぶた祭りの高揚感。そして、凍てつく寒さと視界を遮る風雪に遭っても、日常生活を維持するため黙々と支え合う人々のたくましさ、遅い朝日を浴びて輝く純白の世界の目を見張る美しさ。

青森県に赴任して2年。この地の文化と風土に魅了される日々だ。きっと青森に限らず、日本の至る所で、今この瞬間も、私の想像を超えた豊饒で美しい風景と時間が流れていることだろう。これまで「日本」を語るに際して、私は地域社会の多様性にどれほど自覚的であったらうか。

### 社会の複雑性と「公」の多層性

地域社会の多様性に加えて、県庁での仕事を通じて実感するのは、この国の社会経済活動や私たちが担う公共政策が、実に多くの人々との関わりの中で織り成され、複雑に展開されているということである。

県庁に赴任して最初に所属した農林水産部。そこで出会った生産者たちは、時代と共に変化する生産や流通の

現実の中で「儲かる」農林水産業の面白さを熟く語りながら、「国家の基(もと)」たる農林水産業の意義を伝えてくれた。行政の側でも、県産品の生産性向上のために静かな情熱を燃やす農林水産業の普及員や研究者、農村漁村を守るために必死に知恵を絞り、農林水産業の振興のため汗を流し続ける職員たちがいた。

次に着任した健康福祉部では、限られた資源の中でも地域福祉を担う気概に溢れ、人々のニーズに「寄り添う」ことの重要性と困難性を教えてくれた医療介護従事者がいた。また、障害・児童・高齢・生活困窮の垣根を超えて住民の命と暮らしを包括的、重層的に支えようと試行錯誤する役所の葛藤と優しい眼差し、コロナ対応に奔走する保健師や医療・福祉サービスの提供体制確保のため工夫を重ねる人々の姿があった。

現在、財政課長として担う予算編成では、教育・警察・防災・観光・商工労働・地域交通・道路・建築・航空・港湾・エネルギー・環境・医療・公衆衛生・福祉・農林水産業といった県が担う全ての政策分野の予算事業を査定、整理している。あらゆる事業には政策担当者にとっての真摯な理屈と、これまで関係を培ってきた各業界の切実な願いが存在し、時に「数字の向こう側」に想像を超えた背景事情が姿を見せることもある。議論を深めるほどに明らかになるのは、この社会そのものの複雑性であり、公共政策に関わる主体の多層性ないし多層性である。

思えば、国が法律を作成し予算を編成したとして、個別の政策の多くは国民にとって身近な地方公共団体において執行され、その担い手は、個別の経験と想いを背負った

個々の人間である。また、政策効果の発現は各業界で働く民間の方々との連携なしに叶わないことがほとんどだ。これまで霞が関で政策議論を聞かせるとき、私はそうした人たちに十分に想いを馳せることができていたのだろうか。

### 財務省の人材の多様性

全ての国民には、想像を超えたストーリーがある。その上で「財務省は国家全体を俯瞰して常に理想を語り続けなければならない」と言うのは傲慢との誹りを免れないかもしれない。しかし、それでもなお、想像力と全人格を賭して、国家社会のあるべき姿を論じ、力を持たない小さな声や将来の国民の声にも耳を傾け、少しでも多様な人々に寄り添いながら国家財政を運営していくこととする、二ヒリズムに陥ることなく堂々と価値判断を伴う政策提言をしていくこと、それこそが財務省の責務であり「財務省の人間」の矜持だと私は考えている。そして、だからこそ財務省は多様な価値を体現しなければならない。そのためには、職員一人ひとりが様々な経験を積み、多角的な視点を持つべく不断の努力を重ねることに加えて、組織それ自体が多様な人材で構成されることが不可欠だろう。

このパンフレットを読んでいただければ、財務省で経験できる職務範囲の幅広さ、一人ひとりの職員の語りの奥行き、深さ、深さ、深さ。財務省で将来共に働くあなたが、多様な価値を包摂した人間として成長を遂げていくこと、そして、この世界に一人しか存在しないあなたの個性によって未来の財務省の多様性が鍛え上げられていくことを本州最北端から願ってやまない。

## 内閣官房

内閣官房副長官補付参事官補佐

### 石丸 直

ISHIMARU Sunao  
[平成21年入省]

#### CAREER

平成 21年 大臣官房文書課  
平成 23年 広島国税局  
平成 24年 主税局総務課  
平成 26年 留学(英・LSE、オックスフォード大)  
平成 28年 在ミャンマー日本国大使館二等書記官  
平成 31年 在ミャンマー日本国大使館一等書記官



## より良い社会の実現を目指して~財務省の広い守備範囲~

### ミニ霞が関

私は、一昨年の夏から、「ホシツ」と呼ばれる内閣官房副長官補室で働いています。皆さんには馴染みが薄いかもかもしれませんが、各省庁からの出向者が集う「ミニ霞が関」のような組織で、内閣官房副長官補の下、出身省庁の垣根を越えて

タッグを組み、内政上の重要課題の解決に向け、一丸となって取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症対策やデジタル庁創設をはじめ、課題は多岐にわたります。緊急の対応が求められることも多く、日々緊張を解く暇もありませんが、多様なバックグラウンドを持つ方々と侃々諤々(かんかんががく)議論しながら課題解決

に励む毎日、非常に刺激的であり、充実感を味わっています。

### 成長する実感

一昨年末まで、在ミャンマー大使館で勤務しており、今は内閣官房に出向をしています。財務省を離れて仕事をしていると、財務省の守備範囲の広さを改めて感じます。財務省で培った広い視野を活かし、どの職場においても、「予算・税制等の様々な政策ツールを活用し、より良い社会の実現を目指す」という入省時に漠然と思いつけていた理想を現実のものにするため、日夜頭を悩ます日々が続いています。財務省職員としての業務は、深い知識・教養、広い視野と柔軟な発想が求められる、簡単なものではありませんが、上司や同僚と議論を重ねるなかで、成長を実感しています。

### 熱い気持ち

「自分に何ができるかわからないけれど、友人、家族、国民、そして将来世代に役立つことをしたい」、そうした熱く力強い気持ちを持っている方、財務省に向いていると思います。財務省には、皆さんのそうした思いを実現するための政策ツール、人が揃っています。より良い社会の構築に向けた議論を共にできる日を楽しみに、心からお待ちしております。

後の業務に活かしてくると確信しています。

### 財務省という場

財務省は温かい組織だと思います。もちろんその意味するところは、「厳しくない」ということではないと思います。しかし、成長の機会を職員に与え、いざというときには役割に関係なく助け合う、そんな文化があると感じています。信念を持って働く周りの職員からも多くの刺激を受ける日々です。そんな働き方に魅力を感じたら、ぜひ財務省の門を叩いてみてください!

## 異なるツールを通じた課題解決

### また違う視点で 経済の好循環を回していく

「経済の好循環を回していく」  
財務省にいたときにも取り組んでいた課題ですが、現在は金融庁で、財務省とは異なるツールを使って、その課題に取り組んでいます。

金融庁に来て3年になります。現在、私は日本企業の成長の後押しのためにコーポレートガバナンス改革に取り組んでいます。

海外から見ると遅れていると言われがちな日本のコーポレートガバナンス。数年前、海外留学中に受講したコーポレートガバナンスの授業で、対応が遅れている国としてクラスメートの大半が日本を挙げたのを見て、焦りを感じました。

しかし、コーポレートガバナンス上の形式的な対応だけ促して、中身が伴わないような政策に終わってしまっは、コーポレートガバナンス本来の目的が達成できません。実態をしっかりと把握して企業側のインセンティブをしっかりと見極めるため、日々、国内外の投資家や企業からのヒアリングを欠かさないようにしています。日本企業の持つ良さを活かしながら、企業が成長し、魅力的な企業で溢れる日本市場にできないか、そんな想いを抱きながら思考を巡らせ、政策立案に取り組んでいます。



## 他省庁

金融庁企画市場局企業開示課  
課長補佐

### 島貫 まどか

SHIMANUKI Madoka  
[平成23年入省]

#### CAREER

平成 23年 大臣官房文書課  
平成 25年 札幌国税局  
平成 26年 主税局総務課  
平成 28年 留学(米・ペンシルバニア大)  
平成 30年 金融庁企画市場局総務課 課長補佐

## 他省庁

厚生労働省年金局年金課  
課長補佐

### 関口 雄介

SEKIGUCHI Yusuke  
[平成24年入省]

#### CAREER

平成 24年 主税局調査課  
平成 26年 福岡国税局  
平成 27年 大臣官房総合政策課  
平成 29年 留学(仏・ENA、ストラスブール大)



撮影協力:高橋年金局長(右)

## 社会保障の深淵を覗く

### 昭和36年、昭和60年、 平成16年

いきなり年号を挙げてみました。年金の世界では、「794ウグイス」並みの重要な年です。  
昭和36年は国民年金法施行で「国民皆年金」となった年。昭和60年は基礎年金導入により、基礎

年金と厚生年金の「2階建て」となった改正の年。平成16年はマクロ経済スライドの導入等により、今の年金財政フレームを確立した改正の年。

年金制度を考える際は、こうした長い歴史があるだけに、過去を知り、未来を見据え、社会の変化も織り込んだ超時的視座が必要です。

## 官民の両者を経験して

### 「コンサル」で働く経験

私は現在、官民交流制度を利用し、経営共創基盤(IGPI)でコンサルタントとして働いています。IGPIが抱える案件は、事業戦略、事業再生、投資、地方創生等多岐に渡り、クライアントとなる企業の課題解決のために必要な価値を提供しています。民間企業の考え方を知りたいと考えていた私にとって、非常に得難い経験ができています。

### 本質的な課題解決のために

IGPIでは、クライアントが抱える本質的な課題とその解決に向けた価値提供について、一人のプロフェッショナルとして真摯に取り組むことが求められています。その中で、答えの見えない課題に直面した場合でも、自らの頭で突き詰めて考えること、当事者意識を持ちクライアントの立場で向き合うこと、仲間との議論やヒアリング等を通じリアリティを追求することが、真に価値のある提案に繋がると感じました。これは、財務省での日々の仕事にも通じるものだと思います。

### 財務省に求められる役割

財務省にとって、クライアントは国民の皆さんです。民間企業で働く経験を通じて、予算・税制等の幅広い政

### 「制度を背負う」意気

厚生労働省で年金の世界に飛び込んで現在2年目。最初の1年は5年に一度の法改正の年でした。パートタイム労働者の年金充実を実現すべく、短距離走的な瞬発力で調整に奔走しました。2年目は一転して、次の法改正に向けたロングスパンの熟議。有識者・実務家との議論も重ね、あるべき年金制度に向けて、作品を徐々に練り上げて形にしていくような作業です。

一見真逆のような仕事ですが、共通するのは常に年金制度の歴史や整合性を念頭に置くこと。担当者として「制度を背負う」重みを意識させられます。

### 財務省の役割

制度を持つ各省庁に対し、「査定官庁」たる財務省の役割は何か。「要求側」に立ち向かう、というわけではないと思います。向く方向は同じ、社会保障分野で言えば、安定した社会保障制度を後代に引き継ぐこと。厚生労働省は年金・医療・介護等各制度を背負って、財務省は経済社会全体の安定運営を背負って、お互いの立場で議論を重ねます。この程良い緊張関係の中で、政策は磨き上げられていくのだと思います。

いま制度を背負う側にいることは、今後に向けた得難い経験です。もうしばらく、この深淵のような社会保障の世界にとっぷり浸かる日々を堪能しようと思います。

### 民間企業と悩む皆さんへ

世の中には、「社会を良くしたい、人のために働きたい」という思いを持って働く方々が、官民を問わず大勢います。財務省の政策は、その思いを強く後押しするものでなければなりません。「社会を良くしたい、人のために働きたい」という気持ちがある方は、ぜひ一度、財務省職員の声を実際に聴いてみてください。そのような、熱い思いを持つ方々と一緒に働ける日を楽しみにしています。



## 民間企業

株式会社経営共創基盤  
IGPIカンパニー  
アソシエイトマネージャー

### 谷 伸雄

TANI Nobuo  
[平成23年入省]

#### CAREER

平成 23年 主計局総務課  
平成 24年 主計局地方財政係  
平成 25年 広島国税局  
平成 26年 関税局関税課  
平成 28年 留学(英・LSE)  
平成 30年 総務省自治行政局行政課 課長補佐

国際通貨基金 (IMF) 審議役

## 松本 千城

MATSUMOTO Chishiro

[平成10年入省]

### CAREER

- 平成10年 大臣官房調査企画課
- 平成12年 福岡国税局
- 平成12年 留学(英・ストラスカイト大、LSE)
- 平成14年 主計局調査課
- 平成17年 在イタリア日本国大使館二等書記官
- 平成20年 在イタリア日本国大使館一等書記官
- 平成20年 国税庁長官官房国際業務課 課長補佐
- 平成21年 国際局国際調整室 課長補佐
- 平成22年 国際局為替市場課 課長補佐
- 平成23年 国際局国際機構課 課長補佐
- 平成26年 主計局主計官補佐(外務係、経済協力係担当主査)
- 平成27年 主計局主計官補佐(経済産業係担当主査)
- 平成28年 国際開発機関課 課長補佐
- 平成29年 国際局総務課 国際企画調整室長



INTERNATIONAL  
MONETARY FUND  
PHASE I  
1973  
PHASE II  
1983  
PHASE I  
1998



## 意外と国際的な財務省

### 幅広い国際分野での活躍機会

私が20数年前に財務省に入省した時は、ドメスティックな役所に就職したという意識が強く、予算や税制に関する業務を中心にキャリアを積んでいくのだろうと漠然と思っていました。他方、今振り返ってみると、イギリス(留学)、イタリア(大使館)、そして米国(国際通貨基金(IMF))と3回の海外赴任の機会に恵まれ、さらに、国内にいる際も、かなりの年数、国際局等で国際機関や外国政府と直接的・間接的にかかわる業務に

携わってきました。こうした経験からしても、世間でイメージされている以上に、財務省では国際的な舞台で活躍する機会が多い、ということは自信を持って言えます。

### IMF職員として

現在私は、IMFの財政局というところに勤務しています。

財政局は、マクロの財政政策や政府の歳入・歳入に関する様々な分野の専門家が世界中から集まっています。専門家の実績や能力、仕事へのコ

ミットメントの強さは世界随一で、財政局長は、よく「財政局全員の力を合わせれば、世界中のあらゆる財政問題に対して、解決策を提示できる」と口にしています。

財政局で扱うテーマは、「コロナ危機からの経済回復や格差は正に向けて、財政政策は如何にあるべきか」「気候変動の問題に対して、どのような財政措置を活用すべきか」といったグローバルな課題から、「予算の効率性や透明性を高めるために、途上国にどのような支援を行うか」というミクロの問題まで、幅広いものです。私自身は、後者を担当しており、例えば、途上国が膨大なインフラ需要に直面するなかで、いかに効率的かつ持続可能な形で公共投資を実施していくかといった問題について、同僚と分析をしたり、様々な途上国を訪れ(今はZOOM等を通じ)、現地政府と議論を重ねてIMFとしての提言を策定したりしています。このように世界各地から集まるトップレベルの同僚とともに、様々な国が抱える問題の解決に取り組むことができるのが、IMFで勤務する最大の醍醐味だと思います。

### 財務省職員として

国際的な舞台で活躍する機会は、こうした国際機関への出向に限られたものではありません。私自身、IMFに出向する前は、国際局にて、乱高下する為替への対応、ユーロ危機等の世界的な金融危機への対応、世界銀行等と連携した途上国支援に関する業務に携わっていました。G20やG7等が開催される度に大臣とともに様々な国を訪れたことや、IMF・世界銀行・アジア開発銀行の年次総会といった大きな国際会議を日本でホストしたこと、そしてこうした機会の度に、日本として打ち出すべき政策・メッセージについて議論を重ねて発信してきたことは、最も充実感を得た仕事の一つです。

### キャリア選択に臨まれる皆さんへ

こうした国際機関や国際局等における業務は、非常に刺激的でやりがいがあり、皆さんのキャリアをかけて取り組む価値のある仕事だと思います。財務省では、若いうちからの留学や国際機関・大使館等への出向をはじめとして、職員を育てていく仕組みもきちんと整っています。ぜひ、関心を持った方は、就職活動の機会に財務省の門を叩いてみてください。



欧州連合 (EU) 日本政府代表部  
参事官

## 石谷 良男

ISHITANI Yoshio

[平成15年入省]

### CAREER

- 平成15年 国際局地域協力課
- 平成17年 高松国税局
- 平成18年 留学(米・ハーバード大)
- 平成20年 大臣官房秘書課財務官室
- 平成21年 大臣官房秘書課財務官室 課長補佐
- 平成22年 英国財務省
- 平成24年 大臣官房総合政策課 課長補佐
- 平成25年 主税局参事官補佐
- 平成26年 関税局業務課 課長補佐
- 平成27年 関税局調査課 課長補佐
- 平成28年 金融庁総務企画局総務課 課長補佐(国際室)

## ヨーロッパ外交の中心地 ブリュッセルより

### 欧州連合日本政府代表部勤務の概要

欧州連合(EU)は、ヨーロッパの27カ国より構成される国家連合です。ここブリュッセルには、欧州委員会、欧州議会、EU加盟国の常駐代表部というEUの本部機能が集まっており、毎月EU加盟国の首脳や閣僚が当地に集まりEUの政策に



ついて定期的に議論を行っています。このため、ブリュッセルは、欧州委員会や欧州議会関係者、外交官、マスコミ、シンクタンク、ロビイング団体等が集まる国際都市となっており、EU外交の中心地となっています。

欧州連合日本政府代表部は、EUに対して日本政府を代表する機関であり、EUとの外交の重要な拠点となっています。当代表部には、霞ヶ関のほとんどの省庁から職員が派遣されており、それぞれが各省庁の政策分野を担当しています。私は、財政・金融担当の参事官として、マクロ経済、税制、金融規制、マネーロンダリング対策といった政策分野を担当しています。

日本は、2018年7月に日・EU経済連携協定(EPA)及び日・EU戦略的パートナーシップ協定(SPA)に署名し、この両協定の締結により、日本

とEUの関係は大きく強化されることになりました。日・EU間のEPA及びSPAは、日本とEU双方の市場を相互に開放するとともに、幅広い分野において地球的規模の課題を含む共通の関心事項に関し、日本とEUの協力を促進し、将来にわたる相互的な戦略的パートナーシップを強化していくことを目的としています。当代表部では、この両協定を日・EU外交の法的基礎として、日々、EUとの外交活動を行っています。

### 代表部勤務から考える財務省の魅力

財務省に入省してから18年が経ちましたが、その間に非常に多くの経験を積むことができました。係員・係長の時には、G7、G20、APEC、ASEAN+3、ASEM、国際通貨基金(IMF)や国際開発金融機関の年次総会をはじめとした、世界各国の財務大臣・副大臣等が集まって政治的なコミットメントを形成する会議に、日本政府代表団の一員として参加し、国際的な政治的意思決定の舞台を見るという貴重な経験をしました。

また、その間に、米国への留学の機会や、英国財務省への出向の機会を頂き、国際金融法の学問的専門性を習得し、国際感覚や英語で仕事をする能力を身につけることができました。

課長補佐時代は、マクロ経済、国際税制、金融システムの安定、国際銀行規制、マネーロンダリング対策、貿易・投資協定という各専門的業務を経験しました。これらの業務の中で、経済協力開発機構(OECD)、パーゼル委員会、金融安定理事会(FSB)、金融活動作業部会(FATF)といった財政・金融分野における国際基準を設定する主要な国際機関の各作業部会を担当し、それらの会議に参加してきました。また、IMFの対日審査や、日EU・EPA等の貿易・投資協定の交渉にも関わりました。

財政・金融の主な分野を一通り全て経験した上で、日本大使館や日本政府代表部で、外交の最前線に立つというキャリアパスは、財務省の国際的側面を非常に強く表していると思います。また、こうした経験と知識を持って、EUという国際的に大きな地位を占める国家連合との外交活動に携わること、大変にやりがいのあるものです。

### 財務省を目指される皆さんへ

財務省は、国の財政を担う行政機関であり、我が国の経済をかたちづくるうえで非常に大きな役割を果たしています。この任務を遂行するために、財務省は多くの機能を有しており、入省すると、様々な部署で各種の政策形成に携わります。そうした経験を通じて各種の専門性、スキルを身につけさせるとともに、幅広い分野を横断的に俯瞰できる行政官を育てています。

財務省の政策は、省庁を横断し、政府のあらゆる政策に影響を及ぼすことで、日本の未来をかたちづかっていきます。こうした政策形成に関わることができるということは、本当に誇りに思える仕事です。



在ミャンマー日本国大使館  
二等書記官

中井 智己

NAKAI Tomoki

[平成24年入省]

CAREER

- 平成24年 理財局国債企画課
- 平成25年 理財局国債業務課
- 平成26年 東海財務局
- 平成27年 主計局調査課
- 平成29年 留学(英・LSE、ケンブリッジ大)

## 途上国支援の現場から

### 経済発展の激動のなかで

ミャンマーは、第2次世界大戦以降、長らく社会主義政権による鎖国や軍事政権による支配が続いた後、2011年に民政移管が行われました。それ以降、経済開放により急速に発展しており、そのポテンシャルを表現した「アジア最後のフロンティア」という言葉もよく聞かれます。

そんな激動のミャンマーにおいて、私は現在、大使館に出向し、財政・金融等の分野の業務を担当しています。在外公館は、その国における日本政府代表の役割を果たします。私の日々の業務の一つは、ミャンマー政府を相手に、当地に進出する日系企業支援に関連する規制緩和等について交渉をすることです。また、日本政府はミャンマーに対し、税務や税関行政、金融インフラ整備等の技術支援を実施しており、私は日本政府の窓口として、ミャンマー政府との連絡・調整や現場における

支援を行っています。

ミャンマーにとって、日本からの投資や支援は、経済発展に欠かせない要素となっています。特に、私が担当している財政の安定や金融基盤の構築への貢献は、ミャンマーの開発の根幹を担う分野であり、日本とミャンマーの二国間関係の強化につながる重要なミッションです。

### 現場交渉官として

2020年春、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の事態の中、財政基盤が必ずしも強くないミャンマー政府から、信頼関係の深い日本政府に対して支援の要請がありました。

私は、ミャンマーにおける現場交渉官として、ミャンマー政府との交渉を行い、緊急支援を目的としたODAの実施に向けて奔走しました。ミャンマーの経済動向に不安が高まっていた状況において、日本政府によるODAによって、

ミャンマー政府による迅速な経済対策が実現し、ミャンマー政府から大変喜ばれ、二国間関係の深化に貢献できたことは印象的でした。

### 財務省ならではのフィールド

このような国際交渉の現場においては、私のような若手でも、相手省庁の副大臣級や局長級と直接やり取りすることがあり、緊張感もあります。政府を代表することは簡単なことではなく、ときには難しい舵取りが必要となります。

大事なことは、あらかじめ決まったスタンダードを押し付けるのではなく、相手国のニーズを引き出し、両国の利益になるように調整を行うことです。相手国のニーズを引き出すためには、財政・金融のエキスパートとしての知見が不可欠であり、こうした知見を提供できるのは、日本の財務省から出向しているからこそであると実感しています。

### 最後に

私はこれまで財務省で、国債発行計画や予算の策定などに携わってきました。これらの経験は、ミャンマー政府との交渉や財政・金融分野の技術支援の場面で、活かすことができています。

財務省で働くことの魅力は、財政・金融という大きな軸の中で、財務本省や在外公館、国際機関等への出向といった幅広いチャンスがあり、これまでの経験を還元しつつ、常に新しい経験をしながら、確実にステップアップできることにあると考えています。皆さんも、このような財務省の幅広く活躍できるフィールドにぜひ飛び込んでみませんか。

(本寄稿は2021年1月に作成されたもの)



# 採用に関する Q&A

財務省の採用について、皆さんから多く寄せられる疑問にお答えします。

## Q1

### 採用までの流れを教えてください。

以下の表のように、国家公務員試験に合格した上で、官庁訪問を経て内々定となります。国家公務員試験・官庁訪問の時期はあくまで目安であり、詳細については、人事院ホームページの「国家公務員試験採用情報NAVI」等をよくご確認ください。

	8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月	4月	5月	6月	7月
大卒程度試験 (教養区分)	申し込み期間		第1次試験合格発表	第2次試験(人物試験等)	最終合格発表						
院卒者試験・大卒程度試験 (教養区分除く)			院卒者試験(法務区分)については、10月上旬に第1次試験があり、10月中の第2次試験を経て、10月下旬に合格発表。				申し込み期間	第1次試験	第2次試験(筆記) 第1次試験合格発表	最終合格発表	官庁訪問/内々定

## Q2

### 毎年の採用人数はどれくらいでしょうか。また、女性の採用について教えてください。

直近5年分の採用人数は以下の表のとおりです。財務省本省総合職では、区分ごとに採用人数を決めているのではなく、人物本位・能力本位の採用を行っています。そのため、性別、出身大学・学部、試験区分に区別はありません。また、文系・理系についても区別せず、入省後のキャリアパスに差はありません。

採用実績	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
採用数	22	22	22	22	25
女性数	7	6	6	6	5

## Q3

### 財務省本省ではどのような採用イベントを行っているのか教えてください。

採用担当による財務省の概要を紹介する説明会、政策分野やキャリアパスを紹介する説明会、若手職員との座談会のほか、財務省の所掌分野に関する政策立案が体験できるワークショップなど、財務省独自の説明会を定期的に開催しています。また、人事院主催の「公務研究セミナー」や「総合職中央省庁セミナー」等にも参加しています。これらの説明会を通じて、財務省職員が日々どのような思いをもって政策課題に取り組んでいるかを知っていただきたいと考えています。

詳しくは、[財務省 採用](#)  で検索し、ご覧ください。